地域との結びつきを生かした郷土芸能の活動について

岩手県浄法寺町立大嶺中学校

◎　はじめに

浄法寺町では、豊かな体験活動推進地域として、「大自然に囲まれた環境と人情味豊かな人々とのふれあいのなかで、町内の小中高等学校の連携を図り、他校のモデルとなる効果的な体験活動の在り方を明らかにする」をねらいとし、内容の重点を「豊かな人間性と社会性を育むため、地域の人々とのふれあいを目指した体験活動を展開する」として研究を推進している。

本校でも、この方向性を受け、地域の人々とのふれあいを生かした体験活動を中心とした研究を進めている。

特に、この地域に伝わる郷土芸能は、昭和５０年度から保存会の方々を中心とした地域の要望と協力から取組が始まった歴史のある活動であり、生徒も地域の方々もその伝統に誇りをもって取り組んでいる。

現在、本校は、児童数８５名、生徒数４９名の小中併設校であり、学級の生徒は保育所からほとんど同じメンバーで構成されている。

保護者は兼業農家が多い。保護者・地域の方々は、学校行事、クラブ活動などに進んで参加・援助するなど協力的である。

この取組においても、生徒の練習の指導や着物の着付け等に協力を頂き、発表の場となる運動会には、多くの方が参観に来られ、地域にとっても、大きな行事となっている。

１　本校の豊かな体験活動の全体計画の概要

(1)　ねらい

本校でこれまで取り組んできた郷土の芸能や工芸品等の文化・芸術に関わるもの、職業観育成のための職場見学などを主とし、これからの社会生活の中で重要となる福祉に関わる活動も取り入れ、地域の人々や実際に働く人々と共に活動する中で、生徒の郷土・職業･福祉についての理解を深め、豊かな人間性を育む。

(2)　活動計画

総合的な学習の時間及び､学校行事において実施した。

体験活動の種類・内容	時期	活動の場所	指導者
文化や芸術に関わる体験活動	５月前半	本校	保存会
職場・職業・就業に関わる体験活動	７月上旬	盛岡市内	各職場担当者
勤労生産に関わる体験活動	１１月上旬	本校	学区内老人クラブ
ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動	１１月中旬	一戸町御所野縄文公園	御所野を支える会会長

※　対象学年は第２学年。ただし、文化や芸術に関わる体験活動は全校で実施。

2　郷土芸能における体験活動の実際

(1)　活動の概要

ア　ねらい

（ア）　地域に伝わる伝統芸能を保存会の方々の指導のもとで実際に舞うことを通して、地域とその文化の理解を深めるとともに、郷土を大切にする心を育てる。

（イ）　小学校第５・６学年も含めた縦割り集団での活動を通して、各自が役割を自覚しながら、集団としての実践力を高める。

イ　本校での取組の歴史

（ア）　昭和４４年に、この郷土芸能が廃れ、姿を消してしまうのではないかと心配した地元の有志が、保存会を結成し、その後昭和５０年に後継者育成のために、中学校での活動が始まった。

（イ）　活動当初は、中学校第３学年男子だけでのものであったが､全校男子の取組となり、さらに、昭和６０年には、女子生徒の要望で、女子の取組も始まった。

（ウ）　その後、生徒数の減少が進み、小学校第５学年から中学校第３学年までの取組となった。

（エ）　舞は、男子が刀・扇子を使い、力強さと華麗さのある「虎の口舞」という舞に、女子は、烏帽子、扇子を使い、つがいの鶏を表す２人組での舞「鶏舞」に取り組む。

ウ　活動の流れ

（ア）　５月上旬から練習を開始し、５月２０日（実際には雨天順延のため２３日）の運動会で披露する。

（イ）　第３学年と第２学年の１部の生徒がリーダーとして、事前に保存会から指導を受ける。

（ウ）　練習は、１日１時間ずつ２週間行い、保存会の方々にも指導を受けながら、第３学年を中心とした生徒の活動として進める。

　男女ごとに別れ、その中でさらに、小グループを形成し、第３学年が指導する。

（エ）　発表当日となる運動会では保存会の方々のお囃子で舞う。

　なお、衣装についても、これまでの支援により生徒の人数分そろえてあり、当日の

着付けも保護者の方の協力を得て行っている。

(2)　活動の評価方法

ア　評価の観点

(ア)　活動への主体的な態度

(イ)　地域の文化を理解しようとする態度

(ウ)　地域の文化を大切にしようとする態度

(エ)　集団の一員としての実践力

イ　評価方法

(ア)　活動中の教師の観察

(イ)　活動後、生徒に以下の項目に記述式でまとめをさせた。

①　練習について

②　当日の発表について

③　活動から学んだことについて

④　今後の活動について（今後も取り組みたいか・どのように活動したいか）

⑤　保存会の方々から学んだことについて

(3)　成果

ア　生徒たちは、保存会を中心とした地域の方々との活動を通して、郷土芸能に対する誇りをもち、意欲的に活動するようになってきた。

イ　運動会終了後も、「総合的な学習の時間」のテーマとして設定し、調査を行う生徒もおり、郷土の芸能を大切にしていこうとする姿勢も身に付きつつある。

ウ　地域の方々とのふれあいを通して、生徒たちの中に地域の一員としての自覚も生まれ、地域の行事に進んで参加するなど、社会性が育ってきている。

エ　３年生は、活動のリーダーとして責任をもって、小学校を含めた下級生に指導しており、また、下級生も真摯な姿勢で練習に臨んでいた。

＜生徒のまとめから（抜粋）＞

○　小学生と一緒で、初めは思うような練習ができずに、リーダーとしてとても大変でしたが、運動会当日は、みんなが楽しそうに踊っていて、終わった時にはとてもすがすがしい気持ちになった。（第３学年男子）

○　みんなが同じ目標に向かって練習するから、団結力が生まれるし、踊っていると楽しかった。（第２学年女子）

○　踊っていると、大嶺中学校の生徒でよかったと思えてきます。それは、伝統を受け継いできたことを実感できるからです。（第２学年女子）

○　踊っていると、見ている人たちと心が一つになるように感じました。（第２学年女子）

○　忙しい中、必死に伝統を伝えようと指導してくれた保存会の皆さんの熱意を感じました。僕らが受け継いできたこの伝統芸能を、後輩たちにしっかりと伝えていく義務があると感じました。（第３学年男子）

○　郷土芸能について、もっといろいろなことを知っていた方が、踊りやすくなると思いました。（第１学年女子）

○　卒業してもこの郷土芸能を続けていきたいと思います。楽しかったし、リーダーとして伝えたことが相手に分かってもらえたのが、とてもうれしかったです。５年間もやってきたので忘れることができません。（第３学年女子）

(4)　課題

ア　指導をして下さる保存会の方々も仕事をもっており、授業時間中での指導が厳しい状況にある。

イ　郷土芸能を舞うことに対して、生徒も充実感をもって取り組んでいるが、本質的な理解や後継問題等について、生徒に十分に考えさせる時間の確保が難しい。

ウ　活動のねらいを達成させるために、活動中や活動後の評価方法をさらに吟味する。

(5)　今後の取組の方向性

ア　これまで郷土芸能の体験を中心と進めてきたが、地域理解を深め、郷土を大切にする心を育てるために、保存会の方々の講話や生徒の話し合いなどを含めた計画を作成する。

イ　保存会が地域で行っている活動にも、生徒が進んで参加していくような体制づくりを模索する。

3　学校支援委員会の組織・運営

(1)　組織

本校から校長、小中学校の両教頭、両教務の５名、ＰＴＡ役員から現会長１名、元会長２名、活動に関係する団体の代表として、地区の老人クラブ会長２名、保存会長１名、スポーツ少年団３名、計１４名が委員である。

(2)　運営

今年度は、４回の会議を開催し、活動計画の吟味とそれぞれの活動に必要な指導者や借用物等の確保等を行った。

今年度は、支援委員の中の老人クラブと、保存会の代表者が精力的に働きかけをしてくださり、スムーズに活動を進めることができた。

4　浄法寺町「豊かな体験活動推進地域協議会」における成果と課題

(1)　成果について

ア　地域の人々とのふれあいをめざした体験活動を展開するために、推進地域協議会の委員構成を各学校長、各種団体代表（ＰＴＡ、社会福祉協議会、老人クラブ、芸能協会、農協)、教育委員会等の関係者で組織することにより、各学校の多様な体験活動に対応（支援・援助）できる体制を整えることができた。

イ　協議会の下部組織として、各学校の実務担当者が参加する学校地域連絡会を、年４回招集し、各学校での取り組み状況について具体的な情報交換を行い、連携を図るとともに、それぞれの活動の参考にすることができた。

(2)　課題について

今年度は、各学校の活動計画が立案されてから協議会を組織したことから、来年度の地域における活動内容の基本方針を、年度内に協議会で吟味するようにしたい。

◎　おわりに

本校において、３０年近い歴史をもつ郷土芸能の取組は、学校と地域の連携のもとに、次の世代を担う子どもたちに郷土の伝統を伝える場となっている。

今後も、郷土を愛し、地域の方々とともに生き、活動を進めていくことができる生徒の育成を目指していきたい。